

# 全員参加で一人ひとりが主役の KYT を目指して ～「大鉄 KY」のこだわり



大鉄工業(株)  
線路本部 線路部次長

**小野寺 眞見** Onodera Masami

## Profile

国鉄釧路鉄道管理局に奉職、JR 西日本(株)を経て、大鉄工業(株)に入社。現在に至るまで約 50 年間、線路の保守工事に携わる。中災防公認 KYT インストラクターとして、各種研修の講師を務める。

## 1. 大鉄工業の概要

当社は、社員数 1,200 余人、大阪府大阪市に本社を構え、線路・土木・建築の 3 部門を柱として、関西一円を中心に北陸地方から四国地方までの建設・保守工事を請け負う西日本旅客鉄道（JR 西日本）グループの建設会社である。

当社は、建設会社としては珍しく鉄道線路の建設・保守工事を施工する線路部門を持ち、列車が走らない深夜の時間帯に工事を始め、完了しなければならないなど、作業時間には鉄道特有の制約がある。また、人力に頼る作業も多く、夜間作業・重労働作業・多能作業といった鉄道に精通した軌道工・溶接工等とともに、「チームワーク」で鉄道の安全安定輸送を支えているという公共性の高い一面を持つ（写真 1）。

今回、仲間たちの「労働災害を減らしたい」との思いから始まった「大鉄 KY」について、当社の取り組みを紹介する。

## 2. 労働災害がなかなか減らない

元来、鉄道の線路工事はほとんどが人力に頼ったさまざまな労務作業であり、また、レールをはじめとして使用する材料や器具は重量物が多いなど、非常に重筋作業となつて



写真 1 代表的な作業（レール交換）

いる。また、列車が通行中に線路上で作業をするため、一歩間違えれば列車と接触して命を落とす可能性もあるなど、極めて過酷な環境下での作業が多い。

そのため、当社の線路部門では、2001 年度より中災防の指導の下、「KYT 基礎 4R（ラウンド）法」や「ワンポイント KYT」などの KY 活動を推進することで、夜間作業前の現場点呼時に比較的短時間でできる「ワンポイント KYT」が手法として定着するなど、労働災害は減少する傾向にあった。しかし、2007～2008 年度にかけて、労働災害が多発した。その原因を分析した結果、作業に臨むまでの危険予知活動に着目して対策に取り組むこととした。

### 3. 現場で指差し呼称が実践されない

当時の線路部門の現場では、前述のとおり「ワンポイントKYT」の手法が確立され、始業点呼時に確実にKYTを実施してから、作業を開始していた。しかし、肝心の危険を伴う作業の要所で「指差し・声出し」があまり実践されていなかった。そこで安全担当者たちは、地道に現場へ足を運んだ。

そして現場の声に耳を傾けるうちに、次のことが浮き彫りになった。

○ワンポイントKYTでグループで設定した「指差し呼称項目」に該当する作業に従事しない者がいる。

→軌道工（軌道の作業を行う人）は全員が同じ作業をすることが少なく、それぞれが役割をもっている。全員が同じ「指差し呼称項目」を決めても、その作業に該当しない者がいるため、現場で指差し呼称が実践されない。

○せっかく決めた「指差し呼称項目」について、実践しようという意識が低く、職長・元方安全衛生管理者も本気になって指導していない。

○同じ作業でも日によって作業環境が異なるにもかかわらず、「指差し呼称項目」がいつも同じである（慣れやマンネリ化により、KYTを行うことが目的となっている）。

○点呼時に行う際に実施するKYTは、意見を出す人が限られている。

これら浮かび上がった課題を克服すべきターゲットとし、これに対して効果的な危険予知活動を展開すべく、ゼロ災運動の基本である「全員参加」の原点に立ち戻り、当社の作業環境で最も実践しやすいよう工夫したものが、これから紹介する「大鉄KY」である。

### 4. 大鉄KYの趣旨

「大鉄KY」は、中災防が指導するKYT手

法をベースにして「大鉄らしさ」を加えた、当社独自のKYT手法である。端的に言えば、現場で「実践」する「指差し呼称項目」は、作業者一人ひとりが自ら決め、危険を回避するために自ら行動し、自らの安全を確保するものである。

具体的には、次のような工夫を加えた。

- ①業務が多岐にわたる軌道工の特性を考慮し、グループで設定していた「指差し呼称項目」を、当日作業者それぞれがもつ役割（作業）に対して、個別に「指差し呼称項目」を設定することとした。
- ②「全員参加」の原点に立ち戻り、リーダー（職長）と作業者が1対1の対話方式とすることで「危険のポイント」を洗い出し、全員（リーダー含む）が最も効果的な「指差し呼称項目」を設定するようにした（写真2）。
- ③前述の対話の中で、当日の作業の流れを思い浮かべ、リーダーの経験を交えたアドバイスにより、経験の浅い社員であっても危険のポイントをとらえた「指差し呼称項目」ができるようにした。

### 5. 大鉄KYの手順

「大鉄KY」はリーダーからの指示に基づき、作業者一人ひとりが自ら担当する作業について危険を予知する手法なので、作業が始



写真2 リーダーとメンバーの「1対1」の対話方式

まる前に各自が当日行う作業内容をしっかり把握しておくことが前提である。

職長は5人以下のグループ単位でリーダーを指名し、リーダーが大鉄KYを進める。手順は表のとおりである。

なお、終業時にはリーダーが「指差し呼称項目」の実践度を作業者から聞き取り、「大鉄KY（大鉄危険予知）活動記録表」に実践状況を記入する。

## 6. 大鉄KY 定着への道

2008年度より導入した「大鉄KY」だが、当初は取り組みの趣旨を理解せずに漫然とKY活動を行うなど、決して順風満帆とはいかなかった。

そこで、大鉄KYを当社の安全衛生管理計画の重点管理項目に指定し、全社で取り組みを強化したのに加え、「大鉄KYTの進め方」として、教材冊子を作成して活用するなど深度化を図った。リーダーの育成は、社内で主催する大鉄KY研修をはじめとした各研修時に実践形式で育成していくこととし、全社KY大会（写真3）を毎年開催して、KY活動の技能向上を競った。その結果、2009年度より労働災害は減少傾向にあり、少しずつ着実に効果を上げている。

## 7. 災害ゼロをめざして

「大鉄KY」導入によって、特長であるリーダーとメンバー1対1の対話方式による危険予知活動が、グループの仲間意識を向上さ

表 大鉄KYの手順

手順		
導入	[円陣を作る] リーダーを含め5人以下が基本 リーダー = 整列・番号・挨拶・健康確認	
1 R	<b>本質追究</b> これが危険のポイントだ	本日の作業で最も危険と思われることは何か？ <span style="float: right;">1項目</span>
2 R	<b>対策樹立</b> あなたならどうする	その危険をなくすために現場でどんな行動（対策）をとるか？ <span style="float: right;">1項目</span>
3 R	<b>目標設定</b> 私はこうする	「指差し呼称項目」設定 <span style="float: right;">1項目</span>
確認	<b>指差し呼称項目唱和</b>	「指差し呼称項目」唱和 【〇〇 ヨシ！】（3回） ゼロ災でいこう ヨシ！
		メンバー交代
認	<b>チーム行動目標 唱和（全員）</b> 【現場で指差し呼称項目を実践しようヨシ！】 タッチ・アンド・コール 【ゼロ災でいこう ヨシ！】	リーダーとメンバーが1対1の対話方式で行います。 



写真3 全社KYT大会

せ、良好なコミュニケーションが育まれている。また、協力会社のオーナーからは、「労働災害が減った以外にも、今までは作業者が何も考えずに作業に臨んでいたが、この大鉄KYを導入した後、作業を事前にシミュレーションするようになり、作業者が作業の流れに関心を持ち、各々の役割をスムーズに果たせるようになった」といった喜びの声があった。

今後とも、「全員参加」で仲間とともに、ゼロ災害を目指したい。